

国際産学地域連携PBL

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2020年12月10日 ~2020年12月18日	日本	スラナリー工科大学 ハノイ理科大学 スラバヤ工科大学 UCSI大学 モンゴル工業技術大学	電子情報システム学科 機械制御システム学科 環境システム学科 ・学部1年生 ・学部3年生 ・学部4年生 ・修士1年生 ・修士2年生 ・博士1年生 ・博士2年生	(芝浦工業大学) 学生24名 TA5名 教員8名 職員1名 (スラナリー工科大学) 学生8名 教員1名 (ハノイ理科大学) 学生7名 教員1名 (スラバヤ工科大学) 学生7名 教員1名 (UCSI大学) 学生8名 (モンゴル工業技術大学) 学生6名	井上 雅裕(電子情報システム学科) 山崎 敦子(情報通信工学科) 除村 健俊(電子情報システム学科) 間野 一則(電子情報システム学科) 村上 嘉代子(電子工学科) 市川 学(環境システム学科) 渡邊 大(機械制御システム学科) 長谷川 浩志(機械制御システム学科)



図1 タビマエプロジェクト現地視察

世界3拠点で開催しているCEPのCEP@SITを実施した。参加国は、タイ、インドネシア、ベトナム、マレーシア、モンゴル、日本。参加学生は、海外から36名と日本から29名からなる計65名であった。CEP@SITは、産学地域連携をテーマとしたPBLで、企業からの課題は、自然電力、カネパッケージ、トキタ種苗、アルファコード、Alpha Code、picknoteから提供。自治体からの課題は、埼玉県、那須町、那須塩原市観光局から提供を受けた。また、OMG体験では、那須町で精神価値最大化を目指したタビマエプロジェクトを実施。このプロジェクトの成果物発表会では、那須地区から那須町教育委員会教育長、那須どうぶつ王国総支配人、那須りんどう湖ファミリー牧場社長等8名、那須塩原市から那須塩原市観光局局長を含めた2名の方が参加した。この内容は下野新聞に掲載された。今回のCEP@SITは、COVID-19対策としてオンラインと対面の組み合わせにより実施した。そのため、サイバーフィジカルPBLの空間として、海外学生とワーキングスペースをWebカメラとマイクを用いたGoogle Meetで接続。さらに、ワーキングスペースの状況をリアルタイムの参加学生に場の共有として配信を行った。プロジェクトの成果は、オンラインと対面の組み合わせにより試作することが難しい状況であったがMinecraftで試作をした那須町の課題、ワーケーションのチームが最優秀賞を受賞した。



図2 コワーキングスペース(GLC)



図3 オンライン状況



図4 ワーケーション状況



図5 タビマエプロジェクト挨拶